

第 1 部 基本的事項

I 県民行動プログラムとは

神戸地域県民行動プログラムは、神戸地域ビジョンで提案された神戸地域の将来像の実現に向けて、県民が取り組む行動プログラムとして、神戸地域ビジョン委員会が、県民の参画と協働のもと、地域ビジョンの夢提案にあわせて分野別に設置した部会での議論や、神戸地域夢会議などでの県民の意見も踏まえて、平成 14 年 3 月に策定しました。

この県民行動プログラムは、神戸地域ビジョンに示された神戸地域の将来像と、めざす 3 つの都市像の実現に向けて描かれた夢提案ごとに、その実現をめざす活動のテーマや仕組みづくりなどを、実践活動に取り組む際のヒントとなるよう「行動提案」として提示しています。

今回策定する「神戸地域県民行動プログラム（第 2 期）」は、これまでのビジョン委員会や地域などでの取り組みを点検し、成熟社会に向けて、今後 5 年間（2006～2010 年度）に取り組む活動のテーマや仕組みづくりなどを提案しています。

今後は、このプログラムに示した行動提案の推進状況を勘案しながら、適宜見直しや、新たな行動提案の追加などを行い、内容を充実させていきます。

みなさんの参画と協働で、神戸地域ビジョンの実現をめざしましょう。

《 神戸地域ビジョンー21 世紀への夢提案 》

神戸地域ビジョンは、兵庫県の新しいビジョンづくりの一環として、2030 年を展望しつつ、2010～2015 年頃に向けて、幅広い県民や各種団体・企業を含めた神戸地域の総意となる将来像を描き、その実現に向けた行動指針として策定しました。

その構成は、将来像、都市像を誰がどのようにして実現するか、まず、実現の主役となる自律した市民像と、市民が取り組む地域社会づくりの視点から実現の方向や条件を提案し、次に、地域循環、国際化、地域経済の 3 つのテーマについて、神戸地域の具体的な将来方向を提案しています。

1 神戸地域の将来像

「楽しいまち・神戸」をめざそう

神戸地域の将来像は何なのでしょう。
どんな“まち”であろうとするのでしょうか。
神戸らしい神戸をめざす目標は、どんな“まち”でしょうか。

人々が集い、喜びと感動が共有できる「楽しいまち・神戸」をめざそう（夢提案1）

私達は、震災の困難な状況を乗り越えるなかで、みんなで何かが達成できた時の「楽しさ」を経験しました。こうした貴重な経験を受け継ぎ、地域づくりの目標としていきたいと考えます。

美しいまち並みと豊かな自然の懐のうちに、家族や友人や恋人達が集い、語り、生活する「楽しさ」。地域活動に、企業活動に、働くことに活力と勇気と生きがいを持つ「充実感」。芸術や文化に触れる「感動」。世界の各地から多くの人々が訪れ、滞在し、異なる文化と交流、共生する「喜び」。県下各地の多彩な風土に触れ、「もうひとつのふるさと」を発見する「驚き」。…

私達は、神戸地域の将来像として、このように「多彩な自己実現」が可能な未来を提案します。

2 めざす都市像

ところで、「楽しいまち・神戸」という自己実現可能な未来は、どんな方向性を伴った都市像なのでしょう。地域づくりの視点から、もう少し具体的に提案されています。

「楽しいまち・神戸」の3つの都市像（夢提案2）

誰もが主役になれるまちー市民自律都市・神戸ー

市民自律のもとで、誰もがその得意な分野で主役になれるまちをめざそう。

世界に挑戦できるまちーフロンティア都市・神戸ー

未開拓の分野に果敢に挑戦し、世界に通用する多文化共生都市として、日本と県下各地の未来を先導するまちをめざそう。

感動を分かち合い、癒されるまちーコミュニケーション都市・神戸ー

人の心に感じ響き、自然の豊かさと助け合うコミュニティに心安らぐまちをめざそう。

私たちはめざします

歴史的な市民活動の蓄積を踏まえ、自律した市民による社会を築こう。(夢提案3)

神戸地域で伝統的に蓄積されてきた優れた市民性。主体的に考え、決定し、行動していくという市民自律の豊かな芽が、この地域には歴史的に培われているのではないでしょうか。こうした自律性は、産業経済や芸術文化、スポーツなど市民生活に新たな価値を生み出す創造的な活動や、ボランティア活動などの地域課題に取り組む地域活動として発揮されていくと考えます。

そして、この地域ビジョンを実現するのも、市民がその役割を自覚し、自律的に行動することが基本になります。何も難しいことではありません。できるところからはじめましょう。さあ、楽しもう神戸。

コミュニケーション・チャンネルを広げ、人と人との助け合い、他地域、世界とのつながりを深めよう。(夢提案4)

人と人が直接ふれあうコミュニケーション・チャンネルを広げ、多様なつながりや助け合いの輪を築いていこう。コミュニティ同士の助け合いや、地域内外との交流を進め、兵庫県内、日本全国、世界に伸びる広い視野を持とう。

自律のための社会的な基盤を強化し、活用しよう。(夢提案5)

市民自らが主体的に判断し、責任をもって行動する。成熟した市民社会を築くためには、どのような社会的条件が必要でしょうか。情報を得て、判断し、決定するプロセスを可能にする基盤が大切です。様々な機会を利用して、主体的に自由に活動する、生活する「楽しさ・喜び・感動」を獲得しましょう。

豊かな文化が息づく、生活するまちの魅力を高めよう。(夢提案6)

豊かな教育や文化が創造的な風土を生み、生活するまちの魅力を高めます。

文化豊かなまちの魅力が、人々の交流や地域経済の活性化、企業立地、人口定着を促す「新しい社会的基盤」となっています。

様々な担い手が連携して、複雑で多岐にわたる「コミュニティ」の課題に取り組もう。(夢提案7)

コミュニティの課題は多岐にわたっており、ボランティア団体や自治会、まちづくり協議会などの一つの団体が全部を担えるものではありません。専門家集団との連携や、個別のテーマに取り組むボランティア活動などと地域の住民や地縁組織とをつないでいくことも必要です。

地域の自律と連携を担う組織と仕組み(神戸モデル)づくりを進めよう。(夢提案8)

地域社会の課題に取り組む様々な主体の協働を調整していく、コーディネートしていくことは簡単ではありません。課題によって、市民の参加の仕方、専門家を含めた多様な主体の関わり方、問題に取り組むプロセスが異なっており、しかも、それらの課題が重層的に重なりあっています。例えば、高齢化に対処するためには、建築家、福祉従事者、医療関係者などの専門家が関わりながら、それを実践するボランティア、介護支援者が必要です。

私たちはめざします

「農」と結びあえるまちー「農都・神戸」を築こう。（夢提案9）

北区や西区に広がる田園地帯や、六甲山麓、瀬戸内海の海浜地域を市民共有の資産として、市街地と田園・山麓地域、生産者と消費者が交流を深め、安全で美味しい食材と豊かな自然をもたらす農都・神戸づくりを進めよう。

- ☆ 農漁業と食の分野で新しい技術、文化、教育を創り出す。
- ☆ 田園・六甲山麓地帯を都市構造の中で位置づける。
- ☆ 生産者と消費者の顔が見えるコミュニケーション、相互理解。

自然との共生のシンボル・六甲山ー神戸型の循環社会、ライフスタイルを築こう。（夢提案10）

六甲山系の山並みは、明治以来の植林によって蘇り、都市の生活に潤いをもたらす自然の要衝として、神戸の魅力の核となってきました。これを市民と自然との共生のシンボルとして、環境の保全と創造のもとで、都市と農村が交流した神戸らしい循環社会と、これを支えるライフスタイルを提案します。

- ☆ 六甲山を核とした神戸の魅力づくり
- ☆ 多重型の地域循環の仕組みづくり
- ☆ 循環型のライフスタイルづくり
- ☆ 循環の仕掛け

グローバルな魅力を育て、発信しよう。（夢提案11）

早くから世界に開かれた地として、多様な言語や文化が集まってきた神戸には外国文化の蓄積があります。世界とそれぞれの地域との融合の原動力となるグローバル化の中、外国資本の誘致やまちの活性化にとっても、この蓄積は大きな魅力です。

- ☆ 多様な言語や文化、生活習慣を受け入れることのできる多文化共生の地をめざそう。
- ☆ 世界から神戸へ、そして神戸から世界へ、人々や情報を集めよう・発信しよう。

チャレンジする神戸経済の方向（夢提案12）

重厚長大産業からの転換が叫ばれて久しい神戸経済も変化の兆しが見え始めました。「創造的破壊」(イノベーション)の方向性を提案します。

- ☆ グローバルマーケット(世界市場)に挑戦しよう。
- ☆ コミュニティ経済を開拓しよう。

Ⅲ 県民行動プログラム策定の考え方

1 プログラム策定の趣旨

「神戸地域県民行動プログラム」は平成14年3月に策定され、その後、神戸地域ビジョン委員会をはじめ、地域などでこの県民行動プログラムの行動提案に沿った様々な活動が取り組まれてきました。

このたび、神戸地域ビジョン委員会は、平成13年度から平成17年度の5年間に取り組まれた活動を点検し、「今後一層の取り組みが期待される活動分野」「5年間の社会経済情勢の推移、県民の意識やニーズの変化から、新たに取り組みが求められている活動分野」を確認する作業を行ってきました。

こうした作業を通じて、「神戸地域県民行動プログラム（第2期）」では、「試行的な取り組みはなされているが、まだ十分広がっていない活動分野」「期待どおりには十分には進んでいない活動分野」「新たな取り組みが必要な活動分野」を盛り込んだ上で、今後5年間（2006～2010年度）に取り組む活動のテーマや仕組みづくりなどを明らかにしました。

この県民行動プログラムは、これからも、地域ビジョン委員会や地域夢会議などの場での議論をはじめ、プログラムの実践活動に取り組む中で明らかになった内容などを、行動提案として追加・修正し、充実していくこととしています。

2 プログラムの性格

「神戸地域県民行動プログラム」では、神戸地域の様々な主体がそれぞれの能力と個性を發揮しながら、「楽しいまち・神戸」の実現に向けて活動していくための参考となり、手引となるようなテーマや仕組みづくりなどを「行動提案」という形で提示しています。

行動提案の記載にあたっては、県民（※）が主体となることから、「〇〇しましょう」と表現しました。

（※）ここでいう県民とは、県民一人ひとり（外国人県民も含みます）、自治会、婦人会などの地域団体、ボランティアグループ、NPO・NGO、その他の民間団体、企業などの事業者のことです。

これは、「誰もが主役になって、未開拓の分野に挑戦し、感動を分かち合おう」という神戸地域ビジョンの夢提案を受けて、様々な団体・グループや個人がそれぞれの場所で、多様な活動に取り組んでいる、そうした神戸地域の県民こそが主体であるという視点に立っているからであり、地域ビジョン委員会から県民のみなさんに提案しよ

うという思いがあるからです。

県民行動プログラムを実践していくためには、県民の取り組みとともに、行政も重要な役割を担っています。

神戸県民局には、神戸地域行政推進プログラム（※）の実施を通じて、県民行動プログラムの実施を支援して、両プログラムが円滑に推進されるような配慮を期待しています。

（※）神戸地域行政推進プログラムは、神戸県民局が神戸地域ビジョンの実現をめざして、神戸地域の県民の参画と協働のもとに進めていく神戸県民局の施策・事業体系です。県民行動プログラムの策定と同時に、2006～2010年度の5年間に重点的に取り組む基本方向と、神戸地域ビジョン実現に向けた取り組みの一層の展開方策を具体的に示した「神戸地域行政推進プログラム（第2期）」が策定されています。また、全県ビジョンの実現をめざす県行政の中期的な推進指針となる「全県ビジョン推進方策（第2期）」も同時に策定されています。

この県民行動プログラムは、神戸地域のプログラムとしてまとめています。しかし、神戸地域には、都市部、田園地域、商業地、工業地、ニュータウンなど、様々な地域があります。それぞれの地域によってコミュニティの現状や課題は違ってきます。したがって、それぞれの地域でこの行動提案全ての実行を提案しようというわけではありません。

また、行動提案の項目は、すぐにできるところから取り組んでいこうという願いを持ったものから、将来の社会の成熟の度合いに応じて取り組もうというものまで、多彩な内容となっています。

このため、それぞれの地域の個性と自主性に基づき、また、すぐに取り組むもの、もう少し後に取り組むものなどを取捨選択し、あるいは提案をヒントに地域の実情に合わせた活動へと発展させていただくことを期待しています。

さらには、行動提案は、一般的、普遍的な形でまとめています。したがって、行動提案を参考に実際に行動する際には、異なる人や場所、条件のもとで、知恵やアイデアを出し合って、みんなで決め、力を合わせて、取り組んでいただきたいと考えます。

さあ、『楽しいまち・神戸』の実現をめざして、一歩を踏み出しましょう。